

# 文京ふるさと歴史館

BUNKYO MUSEUM NEWS

# だより

第26号 / 令和元年6月21日発行

館蔵写真で見る“ぶんきょう”一時を感じる—	2
新収蔵資料紹介 菊人形引札の版木	5
ミュージアムショップからのお知らせ	6
平成30年度のあゆみ	7
資料をご寄贈くださった方々	8
令和元年度の催し	8



本郷三丁目交差点附近（館蔵）



# 館蔵写真で見る“ぶんきょう”

## —時を感じる—

### 古写真から

『文京ふるさと歴史館だより』第26号表紙掲載写真は、本郷三丁目の交差点を撮影したものです。写真の台紙には、「明治三十八年(1905)頃」「上野広小路方面ヲ望ム」などの記載があります。光を反射する少しぬかるんだ路面、傘を差し、あるいは手にし、高下駄を履く人びとの様子は、小雨程度の、あるいは雨上がりなどの天候をうかがわせます。画面右には大八車を牽く少年らしき人物、中央には、女学生らしき人物、左側には第一高等学校の生徒でしょうか学生帽をかぶる人物などが鮮明に写し取られています。また商店風の軒並みが奥まで続き、賑わいを見せる付近の雰囲気伝えてくれます。通りには電柱が配置され、画面中央から右にかけて路面電車の軌道が、うっすらと写っています。これは1904年に開通した上野広小路一神田須田町間の路線のものと思われます。1908年には、さらに本郷三丁目一伝通院間の路線が開通します。この写真はまさにその間の事情を物語る、当時の風俗や町並みを伝えるとても貴重な一枚と言えます。

### 記念写真から

さて明治から昭和中期あたりまでの写真、そのなかで圧倒的多数となるのは、“記念写真”です。出生、入学、卒業、婚礼、祭礼、あるいは上棟式や開店、さまざまな場面で、人びとは記念撮影を行ってきました。現在のように気軽に、あるいは簡単には写真撮影ができなかった時代、人びとはその一枚にたいせつな瞬間を記録してきました。

当館が所蔵するこうした記念写真は、文京という地域にゆかりのあるものが中心になります。【写真1】は、祭礼の記念写真と思われます。「御祭礼」との提灯が取り付けられた山車の周囲に「むつみ」と染められた半纏を着用し、笠をかぶった大勢の子どもたち、そして幾人かの大人が揃って写真に収められています。興味深いのは、写真館の前で撮影しているということです。この写真館には画面左の「磯前写真館 市川」、そして画面右側「市川 Y. ICHIKAWA PHOTOGRAPHER」「本郷東竹町廿九番地」(現 本郷二丁目あたり)などと記された看板があります。写真館の外観がこのような形で写真に残ることは、そう多くはないでしょう。写真の台紙には「本郷御茶ノ水 市川製」とあり、まさに「市川」という写真師もしくは写真館が、自らの写真館の前で撮影したことになります。撮影年代は不詳ですが、「東竹町」という町名が存在した1933年以前のものと考えられます。



【写真1】





【写真2】

### 観光写真コンクール

文京区では、区内の名所・旧跡やイベント、町の風景などをテーマに撮影された写真を募集する観光写真コンクール(当初は産業観光写真コンクール)を昭和27年(1952)より開催しています。過去の応募作品のなかには、館の所蔵となったものもあります。【写真2】は、そのなかの一枚で、昭和44年度のコンクールに入賞した作品です。写真には、須藤公園(千駄木三丁目)の池のまわりに人びとが集い、体を回転させている瞬間が写し取られています。服装から想像すると季節は夏、画面右の歌碑(入江為守歌碑)に射し込む木漏れ日の角度、方位を勘案すれば、午前あたりの時間が想定されます。また、たくさん子どもたちが集っている様子を見ると、夏休みの朝のラジオ体操のひとつという可能性が高いようです。現在も続くラジオ体操ですが、この写真からはなにか時代の空気のようなものを感じることができます。

### 区内のできごと

当館では『区報ぶんきょう』の取材写真等を中心とした昭和の懐かしい写真も所蔵しています。そこには、区内のくらしや祭礼、催し、災害ほかのできごと、あるいは文化財や史跡に関するものなどが撮影されています。 ↗

【写真3】は、1964年10月7日のオリンピック東京大会聖火リレーを撮影した一枚です。ギリシャから遠路渡ってきた聖火は、9月7日沖縄に着いた後、北海道から2コース、九州から2コースの合計4コースに分かれ、それぞれ東京を目指しリレーが行われました。そのうち文京区内には北海道から青森・秋田・山形・新潟・群馬・埼玉を経由する「第三コース」が設定され、この日、埼玉県戸田橋から東京都に入った聖火は、板橋区・北区・豊島区などを経由、巣鴨で文京区に引き継がれ、白山通りを南下、水道橋に至り、千代田区側へ引き継がれました。

当日の状況を伝える資料に

『オリンピック東京大会の警察記録』(1964年 警視庁／編)があります。【写真3】が写した水道橋交差点あたりは午前11時30分頃より「中継点(水道橋交差点)および沿道に(観衆が)徐々に集まり始め、当初は1,300名ほどであったが、次第に増え、12時50分ごろには最高約2万名となり、沿道は観衆でうずまり、特に主要交差点は相当の混雑をきわめた」さらに「水道橋交差点の西側においては、予想外の観衆が集まり、その一部は車道内にはみ出たので、応援の板橋小隊を増強配置して整理線を確保」と、熱気にあふれた区内の状況を伝えています。



【写真3】



【写真4】

## 町の風景

【写真4】は1964年頃撮影と思われる服部坂(小日向一・二丁目の間)上からの一枚です。自動車や坂を上り下りする人びとの様子に懐かしさを感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。軒が低く、遠くまで見渡すことのできる家並み、広く感じる空、いずれも現代では撮影することが難しくなりつつある風景です。こうした、町の風景を撮影した館蔵写真は、1960年代あたりから少しずつ増えていきます。

## 定点観測 ー同じ場所を同じ方向からー

文京区では、例年同じ場所、同じ方向から町並みを撮影する事業“定点観測”を、1977年から行っています(事業開始当初は教育委員会が、そして現在は文京ふるさと歴史館が担当)。とくに名所や撮影スポットなどではなく、幹線道路や交差点、その周辺などを中心とした、区内52地点について、それぞれ6方向程度ずつ撮影してきたものです。40年以上続けてきた結果、変化著しいスポット、あるいはほとんど変化していないスポットなどさまざまですが、今後も撮影を継続していくことによって、文京の過去から現在までを知るための、かけがえのないコレクションのひとつになると考えています。なお、これまで撮影された定点観測画像は、展示室内のコンピューターで閲覧することができます。

今年度の特別展は、地域を写した写真のなかから、とくに時代を写す、あるいは時代の空気を伝えるなどの写真をセレクトする特別展を計画しています。みなさまのご来館をお待ちしております。(東條 幸太郎)



定点観測により撮影した開運坂(大塚5と6の間)上/1977年撮影  
左/2018年撮影

※ 掲載した写真のなかには、撮影状況など不明のものもございます。お心当たりなどございましたら、情報提供いただければ幸いです。



## 新収蔵資料紹介 菊人形引札の版木

### 秋の風物詩・菊人形

東京メトロ千代田線千駄木駅のある不忍通りから、千駄木二丁目と三丁目の間を、森鷗外記念館(鷗外旧居・観潮楼)方向へ登っていく坂が団子坂です。この坂は、明治時代、「菊人形」が有名で、東京の秋の行楽地として賑わっていました。菊人形とは、頭と手足は生人形(木彫で胡粉が塗られ人間そっくりに造られた人形)である一方、衣裳の部分は根の付いた菊花(生花)によって造られた等身大の人形です。その起源は江戸後期、動物(象・狸)や景物(富士山・瓢箪)などを菊で形作った菊細工で、巢鴨・駒込辺で流行しました。幕末・明治初期に至り、団子坂の植木屋が歌舞伎などの場面を題材にして、菊を人形に仕立てたところが大流行となり、明治9年からは木戸銭を取って興行化されました。最盛期の明治20～30年代には、植惣・植梅・植重・種半の四大園を含む20軒以上が団子坂の両脇や周辺に立ち並び、各園が毎年、題材や仕掛けに工夫を凝らしました。夏目漱石『三四郎』や森鷗外『青年』のなかにもその様子が描写されています。明治末、両国国技館で電気などを使ったさらに新奇な菊人形が始まったこともあり、団子坂菊人形は明治44年が最後の興行となりました。

### 引札の版木

その菊人形の宣伝に使用されたのが引札(チラシ)です。タイトル(目玉となる出し物)、園名、日程、出し物の内容は絵で表され、菊人形以外に飾られる盆栽や地植えの珍しい菊花、制作を担当する人形師の名前も書かれます。もちろん逆版になっており、摺ると正しい向きの文字・絵柄が現れます。菊人形の興行小屋の入口で、呼び込みの人が道行く人に配り宣伝しました。

これまで当館では多数の引札を収集してきましたが、今回初めてその版木を収蔵しました【図1】。その内容を詳しく見てみましょう。大きさは縦24×横34×厚さ2cm程度、重さ約1kg、固い木の板でできており、分括された枠の中に文字と絵がシャープに彫られ、墨一色で摺られます【図2】。

摺ったときに右端になる部分には「菊細工生人形 廻り舞台大

仕掛 団子坂植重 明治廿七年十月廿五日ヨリ」と記されています。歌舞伎で行われるように、菊人形を乗せた舞台が回り、転回する仕掛けでした。植重は、嘉永期から植梅で職人をしていた浅野浅五郎が、植梅・浅井梅治郎から分与された団子坂下の土地(現在の千駄木駅1番出口付近)で明治43年まで菊人形を興行した植木屋です。

メインの出し物は日清戦争です。戦いの様子が3場面紹介されています。多数の菊人形興行が行われる団子坂で、人を呼ぶためには、スタンダードな題材(歌舞伎や昔話など)に飽き足らず、磐梯山噴火(明治21年)や不忍池でのスペンサー氏風船乗り(明治24年)など、その年の出来事や事件も題材とし、新しい展開を各園が競い合いました。そのため、この年と翌年は複数の園で日清戦争が取り上げられました。菊人形で戦争の場面が再現されることによって、一般人でも戦場の様子を目の当たりにすることができます。テレビやインターネットがない時代、菊人形はタイムリーかつビジュアルにニュースを伝えるメディアとしての役割も果たしていました。

その他の出し物の情報として、伝統を好むファン向けに歌舞伎の「仙台萩」、大輪花壇や1本の幹に五百輪咲く菊も飾られると告知されています。

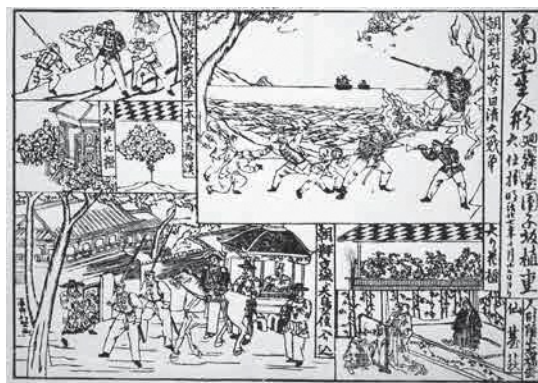
人形師は山本福松とあります。初代福松は生年不詳(幕末頃)、明治41年(1908)没の生人形師で、浅草公園(現・台東区浅草二丁目4付近)に住んでいました。明治10年代に生人形のパイオニアである松本喜三郎(1825～1891)とともに浅草で興行した記録があり、明治20年代頃には植重以外の四大園も含む団子坂の複数園の仕事を担当し、明治41年にその年の制作を終えた直後に急逝するまで菊人形制作に携わりました。当館で所蔵する植惣・浅井家資料のなかにも、福松に関する文書類(書簡、契約関係資料、下絵等)が多数含まれています。残存する人形作品は少ないのですが、実在の人物も極めてそっくりに造る、写実的な作風だったことが知られます。

情報が満載された引札を手にした観衆は、さて、どの園に入ろうかと悩んだことでしょう。現在の団子坂にはその当時の繁栄の名残はありませんが、菊人形は毎年、湯島天満宮の菊まつりで飾られるので区内でも目にすることができます。人形制作は団子坂菊人形の流れを汲む岡本史雄さん(五代目面六)が担当しています。

またこの版木は当館秋のミニ企画で展示する予定です(会期:9月26日～12月25日)。あわせてぜひご覧ください。(川口 明代)



【図1】引札の版木



【図2】左の【図1】引札の版木から摺ったもの(現代)



# ミュージアムショップからの お知らせ

歴史館 1F のミュージアムショップでは、館蔵資料を活用したオリジナルグッズを販売しています。ご来館の折、ぜひお求めください。

## 一筆箋

各 220円



### 昭和大東京百図絵 聖橋

聖橋は関東大震災の復興事業の一環として架けられました。北側に湯島聖堂、南側に日本ハリストス正教会東京復活大聖堂があることから、聖橋と名付けられました。



### 江戸名所道戯尽 三十八 小石川にしとみ坂の図

にしとみ坂は、文京シビックセンター前から中央大学理工学部方面へ上る坂で、江戸時代の坂の道筋は現在とは異なっていました。

## クリアファイル

各 100円



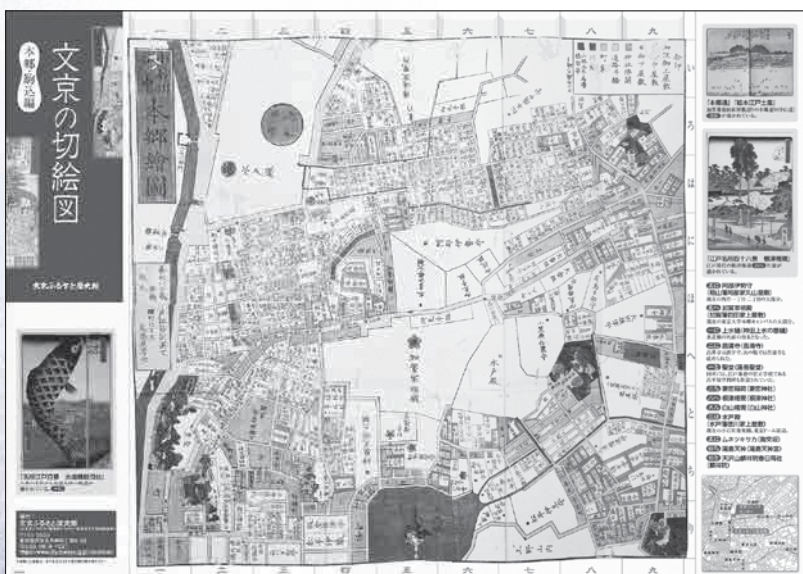
### しん板猫づくし

ネコの書画会の様子です。書画会とは、絵画や書を展示したり、その場で販売したりする会で、ネコを擬人化して描かれています。



### 文京の四季

春は「東京百景 江戸川の桜花」、夏は「関口の月」、秋は「武蔵百景之内 谷中団子坂菊」、冬は「本郷通りの雪景色」で、絵と写真で文京の四季が楽しめます。



## 文京の切絵図

本郷・駒込編

160円

嘉永6年「小石川谷中本郷絵図」と嘉永7年「東都駒込辺絵図」を1枚にまとめました。大名屋敷や寺社、坂道などの場所がわかるようになっています。当時の街並みの様子がわかる浮世絵や挿絵もあります。「文京の切絵図」を片手に江戸時代の様子を想像しながら、街歩きを楽しみませんか。



# 平成30年度のあゆみ

## 小・中学生のための歴史教室

「この字がよめる?わがはい君文字クイズ」

◆7月15日(日)～9月2日(日)

参加者数……187人

## 特別展

「ねこの細道・さんぼ道ーぶんきょう道中ひげ栗毛ー」

◆10月20日(土)～12月2日(日)(延べ38日間)

入館者数……3,837人

◆記念講演会

11月18日(日) 会場:文京区男女平等センター

参加者数……126人

「地図でたどる文京区の地形と地名」

／今尾恵介氏(地図エッセイスト、日本地図センター評議委員)

◆展示解説

10月26日(金)、11月1日(木)、11月7日(水)、11月29日(木)

## 収蔵品展

「ぶんきょういきもの大集合!ー生息地は博物館ー」

◆2月9日(土)～3月17日(日)(延べ32日間)

入館者数……2,579人

◆展示解説 2月16日(土)、2月28日(木)、3月8日(金)

## 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

◆朗読コンテスト

10月28日(日) 有島武郎、芥川龍之介、中勘助、宮沢賢治、森鷗外、山本有三

会場:跡見学園女子大学プロサラムホール

応募総数……245人 本選出場者……16人

観覧者数……205人

◆歴史講演会

12月6日(木) 会場:文京シビックホール小ホール

参加者数……278人

「横山大観ー芸術維新に臨んだ男たちー」

／横山浩一氏(横山大観曾孫・横山大観記念館執行理事)

◆史跡めぐり「横山大観ゆかりの地を辿るー湯島から谷中へー」

10月12日(金)

参加者数……39人

## ミニ企画

◆3月28日(水)～6月24日(日) 「『東都歳事記』とぶんきょう」

◆6月27日(水)～9月24日(月・祝) 「切絵図の読み方

昔の文字を読んでみよう!2」

◆9月27日(木)～12月24日(月・祝) 「右京山の今昔」

◆1月5日(土)～3月24日(日)

「ご当地すぐろくー東京市内勉強家案内寿嬉録ー」

## 史跡めぐり

◆第1回 6月8日(金) 茗荷谷界隈を歩く

ー拓殖大学・お茶の水女子大学にのこる

近代建築を訪ねてー

参加者数……47人

◆第2回 11月13日(火) 文京さんぼー本駒込・千駄木の細道をめぐるー

参加者数……49人

◆第3回 3月16日(土) 神田上水をたどる(本郷編)

参加者数……38人

## ワークショップ

◆第1回 あなたの名所ものがたり'18本郷編

10月14日(日) 会場:東京大学

参加者数…… 5人

◆第2回 あなたの名所ものがたり'18家族編

11月3日(土・祝) 会場:東京大学

参加者数…… 4人



歴史教室



特別展



収蔵品展



歴史講演会



ミニ企画



史跡めぐり

## 令和元年度の催し

※それぞれの事業の開催日時や募集方法等は、歴史館ホームページおよび「区報ぶんきょう」にて、お知らせします。

### 小・中学生のための歴史教室

わがはい君 宝さがし 一展示室にはお宝がいっぱい！  
7月20日(土)～9月1日(日)  
館内の展示を見て答えるクイズを実施します。事前申込不要、参加者には記念品を贈呈。

### 文化人顕彰事業 歴史講演会

金沢三文豪について(仮)  
10月19日(土) 14時～  
会場:文京区男女平等センター 研修室A  
講師:大木志門氏(山梨大学准教授)、徳田章子氏(徳田秋聲令孫)  
定員:100人、要申込(往復はがきにて)

### 特別展

ぶんきょう写真帖 一時を感じる—(仮)  
10月26日(土)～12月8日(日)  
※11月3日(日・文化の日)は無料公開日  
文京を写した貴重な古写真や懐かしい写真を展示。  
また町の風景の現状比較なども展示。

### 文化人顕彰事業 朗読コンテスト

本選 10月20日(日) 13時～16時  
会場:跡見学園女子大学 プロサラムホール  
文京ゆかりの作家の作品を朗読。今年の課題作家は、泉鏡花、内田百閒、江戸川乱歩、永井荷風、萩原朔太郎、室生犀星です。  
コンテスト形式で優秀者を選び表彰します。  
※参加者・観覧者募集の方法等は、ホームページなどでお知らせします。

### 記念講演会

特別展期間中に開催予定 要申込

### 文化人顕彰事業 史跡めぐり

10月頃実施予定 要申込(往復はがきにて)  
参加費:保険料40円・入館料等実費

### 史跡めぐり

歴史館友の会まち案内ボランティアが、区内の史跡等をご案内します。  
年3回(6月、11月、3月)開催予定 要申込(往復はがきにて)  
参加費:保険料40円・入館料等実費

### ワークショップ あなたの名所ものがたり

根津・弥生編、汐見地区編(仮)  
第1回 10月12日(土) 予定  
第2回 11月16日(土) 予定  
参加費:保険料40円 要申込

### 収蔵品展(予定)

山岡家資料の世界(仮)  
2月8日(土)～3月15日(日)

### 常設展示ボランティアガイド

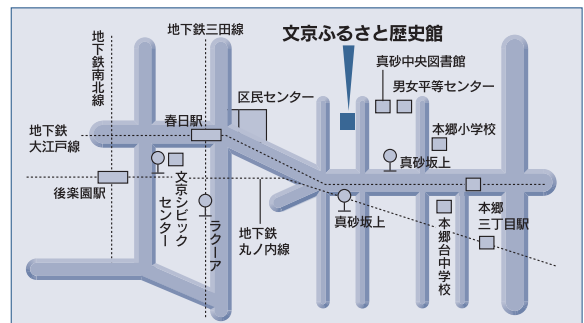
ふるさと歴史館ボランティアガイドが、毎週土・日曜日、13時から17時まで常設展示の解説を行います(申込不要・無料)。  
上記日時以外のご希望も受付けています。3週間前までに、文京ふるさと歴史館へ電話連絡し、申請書を提出してください。

### レファレンス(地域学習サポートコーナー)

毎月第2・4木曜日13時30分から16時30分まで、館内1階レファレンスコーナーにて、地域学習・調査に関するご相談に対応します。

## 利用のご案内

- ◆開館時間:午前10時から午後5時まで
- ◆休館日:月曜日・第4火曜日(休日にあたるときは翌日) くんじょう期間、年末年始
- ◆入館料:一般個人100円、団体(20人以上)70円  
中学生以下・65歳以上無料  
\*特別展は別に定めます
- ◆交通:東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線「本郷三丁目」から徒歩5分  
都営三田線・大江戸線「春日」から徒歩5分  
都営バス 都02 上69「真砂坂上」から徒歩1分  
文京区コミュニティバスB-ぐる「文京シビックセンター」または「ラクーア」から徒歩10分
- ◆ホームページ: <https://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/> 〒113-0033 東京都文京区本郷四丁目9番29号 電話(03)3818-7221



文京ふるさと歴史館